



Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA5-2 KAMIMAEZU2 NAKAKU NAGOYA 460 JAPAN

国際会長標語

“Let Your Light Shine” [輝かせ あなたの光を]

アジア会長標語

“Love your neighbors as yourself” [自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ]

西日本区理事標語

“Be Soul-Mates” -to work hand in hand [皆な仲間]働こう!!

中部部長標語

[いざたて中部!! 今がその時!!]

クラブ会長標語

“Lets move for future of the Earth !!「地球の未来のために行動しよう」

2005年3月号

———<今月の聖句>———

主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えローマ愛を身につけなさい。愛はすべてを完成させるきずなです。コロサイの信徒への手紙 2章13節

グランパスホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~ysmen/>

2005年3月例会ご案内

◎第一例会

と き : 3月3日(木)

と ころ : 名古屋YMCA

時 間 : 19:00~

内 容 : 卓話「砂糖の話」

ドライバー及び卓話講師 服部庄三君

みなさん砂糖の効能を誤解していませんか。今回はワイズメンで唯一砂糖の専門家の服部兄が砂糖の魅力について熱く語ります。

当日講演を聴いていただいたメネットには豪華お土産があるそうです。多数ご参集ください。

◎第二例会

と き : 3月17日(木)

と ころ : 名古屋YMCA

時 間 : 19:00~

◎その他

1. 山田牧場スキープログラム

と き : 3月19日(土)~20日(日)

と ころ : 山田牧場スキー場

2 月 例 会	例 会 出 席 状 況				B Fポイント		クラブファンド(2月)	
	在 席 者	16名	第 1 例 会	11名	当 月 ・ 切 手		ニコBOXノート	
	例会出席者	11名	第 2 例 会	8名	当 月 ・ 現 金		感 謝 ファンド	
	当月出席率	70%	部 会 他	2名	累 計		累 計	

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

＝強い義務感を持つ。義務はすべての権利を伴う＝

第一例会報告



日 時：2月3日(木) 19:00~21:00
場 所：名古屋YMCA305号室
出 席：三井、服部、阿部、荒川、坂倉、早川
吉田正、坂口、坂野、徳田、松原

総会の内容をお知らせいたします。

1. 当日は総会となっており次期クラブ役員の選出ならびに推薦人事の打ち合わせとなりました。内定者は下記のとおりです。

会 長	早川 政人
副会長	佐々木 忍
会 計	下村 明子、早川 政人
書 記	荒川 恭次
会計監査	吉田 一誠
EMC	坂倉 洋、阿部 一雄
Yサービス	坂口 功祐、吉田 一誠
地域奉仕	佐藤 壽晃
広 報	服部 庄三
プログラム	吉田 正、井川 幸吉
ファンド	下村 明子
ブリテン	坂野 清治、荒川 恭次
直前会長	松原 誠
D F	吉田 一誠
交 流	吉田 一誠、三井 秀和

尚、服部君は西日本区の役員としてまた、三井は中部の主査として内定しています。

2. 2月17日(木)第二例会は名古屋YMCA移転に関してグランバス関連の資料、備品をまとめるため、全館において集めて整理いたしますのでぜひ参加してください。

3. 松原会長より会長会における報告としてリーダー会育成ワイズ基金運用規則案についての説明がありました。この件についてはブリテンにて会長より報告があると思います。

4. YMCAの備品整理、引越し移転、ならび

に移転先のクラブ例会等を含む運営内容については後日内容を順次報告いたします。

第二例会報告

日 時：2月20日(木) 19:00~21:00
場 所：名古屋YMCA305号室
出 席：服部、阿部、荒川、坂倉、早川、坂口、坂野、徳田

諸連絡

- ・ 東西日本区交流会は、三井、服部、荒川の3名が参加。とつかクラブとのDBC交流についても併せて行う。今後の交流方法について話し合う予定。
- ・ 例会終了後、YMCA引越しに伴うグランパスの備品探しを実施した。東館等探索したが目だったものは発見できなかった。

議 事

1. 潮干狩りについて
吉田(正)兄からメンバーにメールを出して日程調整する。
2. つり大会について
5月14日(土)を第一候補とする。潮の関係で変更もある。
3. その他ファミリープログラムについて
5月に「お茶会」はどうかという案あり。
会費は1万円程度で考える。

東西日本区交流会

東西日本区交流会編(2月19、20日)

服部庄三

今年度の東と西の日本区大会は、都合により6月11、12日と、同じ日となってしまう、これが発端となって、今回の交流会が開催されることとなりました。東西から400名のワイズが集まり旧交を暖めあいました。プログラムは国際会長、両区理事、同盟総主事の挨拶による開会式にはじまり、分科会形式の交流プログラム。「クラブ例会の活性化を考える」「パソコンによるブリテンの作り方」など少し硬いものでしたが、それぞれ実践的、実用的なものでした。

18時からはお待ちかねの懇親会。パフォーマンスあり、バンド演奏あり、ドアプライスありの楽しいひとときでした。3時間は長いかなと思っていましたが、何の何の東西の懐かしい人たちとのおしゃべりと大好きなアルコール(三井君は特に!)であっという間に時間が過

ぎました。

21時から DBC 交流の時間。とつかクラブと現状と今後について話し合うことができました。会議形式のわれわれ以外の会場は、懇親会に続く大宴会がつづいていたようです。DBC 締結以来お互いの腹を割った話し合いが出来ていなかったわれわれとしては、非常に意義深い時を深夜まで持つことができました。翌日も朝食のあと、互いに時間を作り、とつかクラブの部屋に集まり、昨夜の延長戦。大いに話しに花がさきました。(内容報告は三井君から報告)。愛知万博での再会を約束し、それぞれ帰路に立ちました。



夕食懇親会

DBC 交流会編

三井秀和

[出席者]

横浜とつかクラブ：

加藤利榮氏、三谷晃一氏、菅原徹也氏、浦出昭吉氏、安田悦子氏、安永和夫氏(横浜とつか連絡主事) 以上 6 名

名古屋グランパスクラブ：

服部庄三、荒川恭次、三井秀和 以上 3 名

[交流日] 2005 年 2 月 19～20 日

[場所] 東西日本区交流会会場

日本 YMCA 同盟 東山荘

[交流内容]

2 月 19 日

18:30 より開かれた夕食懇談会後の「交流会の夕べ時」に場所を移動後、両クラブ現状の報告など再会の喜びと今後の交流をより太く、強くしていくことを確認しながら楽しい懇談が夜遅くまで続きました。

2 月 20 日

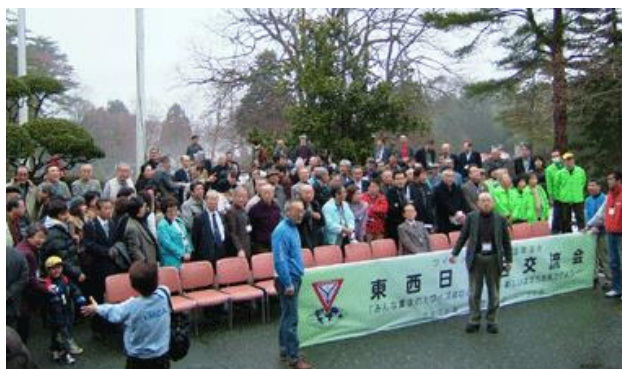
朝食は両クラブ同席して談合、その後横浜とつかの宿泊部屋に移動後、今後の交流等について話し合いました。両クラブもメンバー増強、維持が問題でそれぞれの事例を話し合いながら EMC 強化を進めていくことを確認しました。また、今年は万博が名古屋で開催されるので、万博への見学などの来名時の交流を期待している旨を説明、横浜とつかとしての予定を立てて万博見学とグランパスとの交流を考えるとの返答でした。12 時の閉会式後、再会を約束して横浜とつかのメンバーと別れ、一路帰名の車上となりました。



国際会長の挨拶



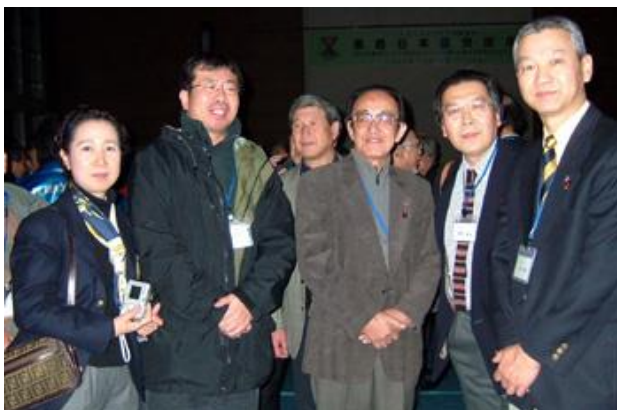
東西クラブの DBC 締結式



記念写真撮影風景



DBCアワーにてとつかクラブメンバーと



夕食懇親会にて



安永さんと記念撮影



両クラブの次回の再開を誓いました

道中記編

荒川恭次

この旅は金沢での中部部会と同じ食いしん坊3人組です。旅の目的はと聞かれたら、間違いなく「美味しいものを見つけるため」と答えるでしょう。美食家？グルメ？い～え、ただ飲むために食いたいただけなんです。で、今回の旅はどうであったか。

2月上旬厳冬の中とはいえ太平洋に面した御殿場で、東名高速道路が積雪による凍結で通行止めになるなんて誰が予測できたでしょうか。岡崎ICを過ぎた頃の道路情報にわが耳を疑いました。沼津ICを過ぎる頃は平行するR1に逃げるトラック郡が渋滞の兆候を見せ始めたため、R1走行を諦めて富士ICから山側に登りサファリパークから大きく迂回するルートを選ぶことを決めました。積雪が心配されましたが、幸いなことに荒川号は雪山仕様で、たとえ積雪があっても何とかなる。運転手が雪道走りたくてムズムズしていたことから3人の同意は簡単でした。さすがに山側に迂回する車は少なく、快適なドライブを楽しみましたが、路肩には積み上げられた雪がたっぷりあり、サファリパークは一面雪景色。スキーに来たようなワクワクした気分を味わいました。そして、これが功を奏してご紹介する「旨いもの」にありつけました。車中から服部メネットに指令が飛び、インターネット条件検索により「店名」「住所」「電話番号」の返信メールが来る。それを車載のナビで検索する。そしてたまたま迂回ルート近くの店をヒットすることができ、そこが今回紹介する海鮮料理専門店「魚啓（うおけい）」です。全国旨い物店リストに入れてもよい店です。☆☆です。どうしてお褒めなのか。

①新鮮な海鮮の種類も多く旨い

沼津港からの直送便で朝仕入れたものが出るので新鮮。

②ボリュームがすごい

ここがポイントです。とにかく量が多い。洗面器のような丼に海鮮がいっぱいです。おまけに定食なら洗面器のようなとん汁と茶碗蒸し等が付いて、一人前が食いきれない。

③お値打ち

ここもポイント。安い！。注文する前にメニュー見てあんがい安いなと思っていると、②で出てきた物見てスゴイ安いと感激します。

19日の昼食で非常に満足したので20日も行っていました。御殿場方面に行かれる機会ありましたらぜひお試しください。後悔はさせませんよ。詳細は服部兄まで。

さて、DBCに話を戻しますが、とつかクラブのブリテン担当の安田さんとネット上でのDBC交流方法について意見交換しました。物理的には年1回程度の交流しか持てませんが、ネット上ならば日常的な交流が可能です。具体的な方法については今後の検討課題ですが、このような話題について両クラブが共通認識を持てたことは今回の大きな収穫です。ぜひ実現したいと思います。とつかクラブは昨年ホームページを立ち上げDBCコーナーも設けています。グランパスHPのトップページからもリンクを張りました。とつかクラブとグランパスの違いがうまくまとめられています。ご覧ください。

<http://www11.plala.or.jp/yokohamatotsuka/sub3.html>



服部兄右が安田さん



中とろ丼定食



うなぎ丼定食（完食できなかった）



これ海鮮丼 全部食べられる？



ヒレカツ定食にも海鮮タップリです。



デカイかき揚げです



もう食えんゾ

写真見ているだけでお腹膨れませんか。

SO冬季世界大会開催

吉田（正）兄が日本選手団長を務めるSO冬季世界大会が2月26日に開会式が開催されました。大きくテレビ・新聞報道されていますので関心も高まっています。グランパスは実務面でのサポートはできませんが、吉田（正）兄のご苦勞を理解し声援を贈りましょう。

新聞記事のスクラップを別冊としました。ホームページへは著作権の関係で掲載できないので紙面でご一読ください。

そ の 他

1. スマトラ沖地震・津波被災地視察報告会のお知らせ

12月26日に襲った大地震と津波は多くの犠牲者を出しました。特に、インドネシア、スリランカ、インド、タイなどの被害は大変なものとなりました。



カラルYMCAの子供プログラム

日本のYMCAは、1月早々に現地へ先遣隊を派遣し、世界のYMCAが協力して、現地YMCAを通して緊急支援活動が大々的に始まりました。世界中から支援の声が上がり、世界YMCA同盟とアジア・太平洋YMCA同盟が調整しながら、支援活動を展開しています。

2月には、その後の状況視察と今後の支援事業計画について、国際ミーティングのために日本YMCA同盟の山根さんが、再度現地に行かれています。その山根さんの帰国を待って、現在の被災地の状況を聞き、わたしたちに求められる国際協力について考えたいと思います。ぜひ、ご出席ください。

日時：2005年3月5日（土）14時～16時
会場：名古屋YMCA3階A Vホール

お申し込み：YMCA 窓口か、電話（052-332-2161）にてお申し込みください。

* 皆様から寄せられた募金は470,118円（1月末）となりました。引き続き6月末まで募金活動を行います。ご協力をよろしくお願いいたします。



カルムナイの避難所で活動する南アのボランティア

2. こどものアトリエ コパン の紹介

私の次女に加奈子が自宅そばにあるアトリエ〔少々古い建物ですが待合室も完備しています〕にて子供たちを対象としてアトリエ コパンを開いています。

詳細はホームページをご覧ください。

日進、豊田 長久手に住んで見えるメンバー各位のお知り合いで絵、工作、などアート等などに興味ある方が見えたら、紹介などよろしくお願いいたします。

<http://www.freepe.com/ii.cgi?copain>

三井秀和

頑張る勇気に声援を!



みんなの周りにはいろいろな人がいます。健康者に体の不自由な人、知的障害者も。今月26日から長野県内で開かれる「スペシャルオリンピックス(SO)冬季世界大会」は、そんな知的障害者のスポーツの祭典です。アジアで初めての世界大会、さあ、注目ッ。

26日からSO冬季世界大会

知的障害者のスポーツの祭典

「スペシャルオリンピックス」ってどんな五輪? 疑問に答えてくれたのは世界大会の吉田正・日本選手団長(名古屋・日本選手団長)。これは、知的な発達障害のある子供や人のための一年を通じたスポーツ活動のことなんだよ。夏ならサッカーや水泳、ボウリング、陸上など、冬はス

世界大会を前に、競技の楽しさや期待を語る。右から吉田正さん、村上太さん、神野峻輔さん。名古屋市中区の名古屋YMCAで



SOの冬季活動で、スキートのトレーニングに参加した子供たち。1月、長野県平谷村の平谷高原スキー場で(SO日本愛知提供)

金・銀・銅・リボン みんなを表彰

たデイヤンがきつかけです。今では百六十カ国・地域が加盟。国内でも三十三都道府県で、約四千人がボランティアとともに活動しています。世界大会は日ごろの成果を発表する場ですが、吉田さんは熱っぽく「スポーツが純粋に楽しめる大会。オリンピックとは違つていろいろなあるんですよ。その一は入場行進で国旗は持たない、優勝しても国旗も国歌もないこと。その二は全員が表彰されること。金、銀、銅メダルだけでなく、下位の選手にはリボンがかけられます。何より性別や年齢、競技能力でグループが分けられ、同じ程度の競技者同士が競い合えるようになっています。予選落ちもありません。「勝ちチャンスは誰にもある。認められるのは誰にとっても大きな励みだからね」と吉田さん。

三月五日まで開かれる今回は、日本の百九人を含む八十六カ国・地域の選手千九百人が参加。クロスカントリ、スキーやフィギュアスケート、フロアホッケーなど七競技七十九種目に出場します。スピードスケートの選手、神野峻輔さん(名古屋市中区)は五年前SOに仲間入り。国内の競技会で実績はあるけれど「メダルより滑ることが楽しい」。アルペンスキーの村上太さん(愛知県岡崎市)は四歳からスキーを始め、団体スキー競技愛知県予選で試合の前に滑る前走も務めた腕前。「回転などでポールをはささないよう滑るのが難しいけれど、金メダルを目指します」とキツパリ。

「みんなが一人の人間、同じ仲間という目を持てば、自分には足りないものにも気づくかもしれない。其感を持って選手たちを応援してほしい」と吉田さん。選手は「私たちは精いっぱいを出して勝利を目指します。たとえ勝てなくても、頑張る勇気を与えてください」という言葉で宣誓します。勇気がみなぎるように声援を送りたいですね。

スペシャルオリンピックス 冬季世界大会の日本選手団長 吉田 正 さん

元は体育教師を目指していた。気持ちが変わり始めたのは中京大一年の秋。ボランティアで参加した子供向けのスポーツ教室で、初めて自閉症児に出会った。自分の顔を触ったり動き回ったり。体に触れようとすると本気で嫌がる。コミュニケーションが取れないことにショックを受けた。それから夢中だった。知的障害について書かれた本を読みあさった。しぐさや目の動きなど、ちょっとしたサインを見逃すまいと、その子から目を離さなかった。二年近くがすぎた

この人



ころ、少しずつ気持ちが通じるようになった。大学卒業後も、名古屋MC Aで障害者の体験活動に携わるように。今は、知的障害者にトレーニングの機会を提供する「スペシャルオリンピックス(SO)日本・愛知」のスポーツプロ

ころ、少しずつ気持ちが通じるようになった。大学卒業後も、名古屋MC Aで障害者の体験活動に携わるように。今は、知的障害者にトレーニングの機会を提供する「スペシャルオリンピックス(SO)日本・愛知」のスポーツプロ

だが、理解を深める一番の早道は、全力で競技に打ち込む選手の姿を、実際に見てもらうことだ。「大会を、知的障害者について知り、考えてもらう絶好の機会にしたい」

五十四歳。札幌市出身。名古屋市緑区在住。

(宮川 まどか)

知的障害者について知り、考えてもらう機会に